

EXHIBITION & CONFERENCE

14–17 September 2026
Bangkok, Thailand

ジャパン・エネルギー ストラテジックプログラム資料

2026年9月15日(火)、
タイ・バンコク

www.gastechevent.com/japan-energy

提供



JAPAN
ENERGY SUMMIT
& EXHIBITION
ジャパン・エネルギー・サミット



田中 伸男
前国際エネルギー機関
(IEA) 事務局長
* 敬称略

“エネルギー安全保障を確保するためには、これまで以上に強固な国際連携が求められています。新たなエネルギー地政学への対応が進むなか、本プログラムは、多国間協力の強化と革新的なパートナーシップの構築を促進する重要な場を提供します。”



シルバースポンサー

abaxx. Exchange

プリンシパルスポンサー

ENEOS ENEOS Xplora

インサイトパートナー

kpler

ナレッジパートナー

JAPAN NRG

ジャパン・エネルギー ストラテジックプログラム

世界有数のエネルギー消費国・輸入国である日本の電力システムは、地政学的変化やサプライチェーンの動向に常に大きな影響を受けています。今年のベルシャ湾危機に伴うエネルギーショックとその影響が示すように、日本が第7次エネルギー基本計画（2025年）で掲げるエネルギー供給の強化は、極めて重要な国家的課題であり、その取り組みは現在急速に加速しています。LNGおよび代替燃料の安定確保、構造的脆弱性の解消、そして将来のエネルギー需要増加への対応が求められるなか、日本は輸入化石燃料依存型経済から、自立的な電化社会（エレクトロステート）への転換に向けた大規模な戦略を推進しています。

ジャパン・エネルギー・プログラムでは、世界第5位のエネルギー市場である日本をはじめ、その主要な地域・国際パートナーから業界を代表する関係者が集結し、急速に変化する市場環境における機会と課題を分析します。日本がどのようにエネルギーミックス戦略を進化させ、産業分野における電力需要の拡大と脱炭素化目標の達成に向けて、電化とデジタル化を推進しているのかについて、ハイレベルな議論が展開されます。本プログラムでは、日本を中心とした視点から、アジアのエネルギーの未来を左右する重要な要因や潮流を考察するとともに、日本が地域のエネルギー安全保障に向けた協力をどのように主導できるかを探ります。

東京で毎年開催される「ジャパン・エネルギー・サミット」との連携のもと、Gastech Bangkok 2026の会場において、日本のエネルギーリーダーと直接交流できる貴重な機会を提供します。これは、このダイナミックかつ世界的に影響力の大きいアジア市場にとって重要な転換期に開催される特別な場となります。

Gastechストラテジックカンファレンスの全プログラムはこちらから
ご覧いただけます:

www.gastechevent.com/conferences

アジア、そして世界の
LNG・天然ガスの
未来を見据える上で、
日本のエネルギー戦略を
理解することは
不可欠です

Pathways to scale and market maturity
日本の水素市場の開発と成熟を加速する

Jemelkova
CEO
Hydrogen Council

Yoshinori Kanehana
Chairman of the Board
Kawasaki Heavy Industries, Ltd.

Phil Caldwell
CEO
Ceres Power

Sanjiv Lamba
CEO
Linde

Yuichiro Fujiyama
SVP, ENEOS Corporation & CTO
ENEOS Holdings, Inc.



カンファレンスプログラム概要

2026年9月15日(火)

ジャパン・エネルギー・シアター

11:15 - 11:30

開会挨拶

11:30 - 12:10

政策対談パネルディスカッション

世界の転換期における日本のエネルギー外交:供給レジリエンスの強化、多様化、戦略的パートナーシップの推進

12:10 - 12:50

グローバルCEOパネルディスカッション

日本のエネルギーミックスの変革:将来を見据えたエネルギーシステムの多様化と安定化

12:50 - 13:50

ネットワーキング昼食会

13:50 - 14:40

リーダーシップパネルディスカッション

逼迫する市場環境における日本のLNG戦略:供給、柔軟性、そして長期的競争力

14:40 - 15:20

リーダーシップパネルディスカッション

変化する燃料選択:公益事業、レジリエンス、そして進化する日本の電源構成

15:20 - 16:00

リーダーシップパネルディスカッション

日本のLNG契約を徹底分析:変動する市場における柔軟性、価格耐性、リスクへの対応

16:00 - 16:40

リーダーシップパネルディスカッション

日本・ASEANエネルギー回廊:地域連携を通じたCCUS、水素、LNGの拡大

16:40 - 17:20

リーダーシップパネルディスカッション

日本の次なる産業成長を支えるエネルギー:データセンター、半導体、先端技術製造業の需要拡大への対応

17:20 - 18:00

リーダーシップパネルディスカッション

「水素社会」実現に向けた日本の取り組み:技術、市場形成、そして地政学的現実の整合

ストラテジック カンファレンステーマ

世界のエネルギー・経済・地政学

エネルギー供給の拡大、エネルギー安全保障、そしてエネルギー主権は、地政学的な不確実性が高まる時代において、これまで以上に重要な課題となっています。世界のエネルギー市場は、需要の増加、地政学的リスク、そしてレジリエンス強化への関心の高まりを背景に、大きな変革期を迎えています。サプライチェーンの再編や国際的な連携の変化が進むなか、エネルギー供給の拡大は喫緊の課題となっています。

Gastechでは、多様化されたエネルギー供給、強靱なインフラ、そして実効性のある政策フレームワークが、いかにエネルギーシステムの安定性を強化できるかについて、世界のリーダーが議論を交わします。また、市場、貿易フロー、国際的なパートナーシップが需要の変化に対応し、エネルギーへの安定的かつ手頃なアクセスをどのように確保していくかを探ります。

天然ガス・LNG

天然ガスおよびLNGは、世界のエネルギー安全保障を支え、エネルギーシステムの変革を推進するうえで、ますます重要な役割を担っています。世界的なエネルギー供給の混乱が深刻化するなか、天然ガスおよびLNG市場は大きな圧力に直面しています。アジアでは、信頼性の高いエネルギーへの需要がかつてない速度で拡大する一方、ガスの安定確保、石炭からの転換、そして産業成長の維持に向けて、分断された供給ルート、価格変動、インフラ不足といった課題への対応が求められています。

Gastechでは、長期化する不確実性のなかで、エネルギーシステムの安定化、重要な貿易ルートの保護、そしてエネルギーインフラへの継続的な投資をどのように実現していくべきかについて、業界のリーダーが議論を交わします。

電化・産業化

電化は、経済成長を支えるとともに、世界のエネルギーシステムの変革を加速させる重要な要素となっています。AI、デジタル化、産業成長、そしてエネルギーへのアクセス拡大を背景に、世界的に電力需要が急速に増加し、エネルギーシステムの在り方を大きく変えています。この需要拡大に対応するためには、再生可能エネルギー、原子力、蓄電技術に加え、天然ガスが柔軟なベースロード電源として機能する統合型エネルギーシステムの構築が不可欠です。

Gastechでは、これらの技術をどのように組み合わせることで、信頼性と拡張性を備えた電力システムを実現し、急速に変化する世界のエネルギー環境において経済成長を支え、エネルギー安全保障を強化できるのかについて、世界のリーダーが議論を交わします。

人工知能 (AI)

AIは、より高度なエネルギー利用を支え、エネルギーシステム全体の最適化を推進しています。AIは、効率性、需要予測、システムの適応力を向上させることでエネルギー分野に変革をもたらす一方、データセンターの急速な拡大と電力需要の増加を促しています。その可能性を最大限に引き出すためには、エネルギー供給、デジタルインフラ、そして投資の枠組みを一体的に拡充していくことが求められます。電化が加速するなか、AIは需給バランスの最適化とシステム全体のパフォーマンス向上に重要な役割を果たします。

Gastechでは、テクノロジーとエネルギー分野のリーダーが一堂に会し、AIを活用して事業運営を高度化し、レジリエンスを強化するとともに、より高度で柔軟に対応できるエネルギーシステムを大規模に実現する方法について議論を交わします。

低炭素ソリューション・エネルギー効率

低炭素ソリューションとエネルギー効率化は、より強靱で低排出なエネルギーシステムの実現を支えています。低炭素ソリューションとエネルギー効率化は、世界のエネルギーシステム全体において、着実な排出量削減を実現するための重要な鍵となります。

Gastechでは、これらの技術を構想から大規模な実装へと発展させるための方策を探るとともに、複雑化するバリューチェーンへの統合、システム全体の最適化、そしてより相互に連携した強靱で低排出なエネルギーシステムの実現に向けた取り組みについて議論します。

水素・低炭素燃料

水素と低炭素燃料は、多様化するエネルギーミックスにおいて、その大きな可能性を切り拓いています。水素と低炭素燃料は、天然ガスを補完し、脱炭素化が困難な産業分野を支える、将来のエネルギーシステムに不可欠な要素として注目されています。アジアでは、インフラ整備と政策枠組みの構築が急速に進み、世界有数の需要拠点としての存在感を高めています。

Gastechでは、生産の拡大、輸送・貯蔵の最適化、既存インフラへの統合を通じて、より強靱で多様性のあるエネルギーミックスを実現するための戦略について、業界のリーダーが議論を交わします。

登壇予定者



東 哲也
資源開発課長
経済産業省



渡辺 哲也
事務総長
東アジア・アセアン経済研究
センター (ERIA)



金花 芳則
会長
川崎重工業株式会社



Justin Rowland
Director & CEO
JERA Global Markets



森 裕之
エネルギー開発金融部長
独立行政法人エネルギー・金
属鉱物資源機構 (JOGMEC)



菊地 剛彦
アジア・パシフィック総代
表 兼 インド総代表
兼 Mitsubishi Heavy
Industries Asia Pacific Pte
.Ltd. 会長
三菱重工業株式会社



杉山 正幸
エネルギー事業本部長
株式会社商船三井



穴倉 尚
執行役員
低炭素ソリューション本部
天然ガス事業部長
ENEOS Xplora 株式会社



篠本 晃
執行役員 国際エネルギー戦
略に関する事項担当
J-POWER (電源開発株式
会社)



藤森信行
GM - LNG Business
Department
東京ガス株式会社



Sarah Behbehani
SVP & Head - LNG
Trading Asia
SEFE Marketing and
Trading



Catherine Sylvain
Director - Energy
Japan
bp



Ronan Bescond
VP - LNG Marketing
& Origination
TotalEnergies



Yingying Zhou
VP - Origination
Cheniere Energy, Inc



増田 友輔
室長
株式会社 国際協力銀行



Claudio Ribeiro
Head - LNG Trading
Asia
Vitol



青柳 亮子
ジャパンカントリープレジ
デント
シュナイダーエレクトリック



田中 伸男
タナカグローバル株式会
社代表
元国際エネルギー機関(IEA)
事務局長



Felix Booth
Global Head - LNG &
Natural Gas
Vortexa



Lucian Keong
MD
Global Infrastructure
Partners



Sundar
Chidambaram
VP - Government
Affairs
Siemens Energy



Joseph Bauer
Senior Advisor, Indo-
Pacific
Export-Import Bank
of the United States



結城 百代
海外事業第一本部 海外計画
部 兼) 海外事業第二本部 ア
ジアカーボンニュートラル事
業部 上級主幹
石油資源開発株式会社
(JAPEX)



大平 英二
Head - Hydrogen
Business / European
Representative
川崎重工業株式会社/一般社
団法人水素バリューチェーン
推進協議会



Wooi Leong Tan
Senior Executive
Director - Global
Energy
Surbana Jurong Group



鈴木 圭一
パートナー&再生可能エネ
ルギー・サステナビリティ投
資 責任者
株式会社アドバンテッジパ
ートナーズ



Chad Harkness
MD - Energy
Geminus



Gavin Thompson
Vice Chair - EMEA
Wood Mackenzie



Joshua Ngu
Vice Chairman &
Head - Asia Pacific
Region
Wood Mackenzie



Yuriy Humber
Founder
Japan NRG



Aman Modi
MD & Senior MDP and
Head - BCG Thailand
BCG



Ilke Karayigitoglu
Senior Director,
Consulting
S&P Global Energy



Agnieszka Ason
Senior Research
Fellow
Oxford Institute for
Energy Studies



Mona Bhagat
CCO
Elemental
Technologies

GASTECH 2026で日本のエネルギー エコシステムを代表する登壇者



Takayuki Ueda
President & CEO
INPEX Corporation



Yoshinori Kanehana
Chairman of the
Board
Kawasaki Heavy
Industries



Izumi Kai
CEO
JERA Asia



Takeshi Hashimoto
Representative
Director, Chairman of
the Board
Mitsui O.S.K. Lines



Akihiro Ondo
CEO & MD
Mitsubishi Power Asia
Pacific



Michiko Hirose
Senior GM LNG
Business Dept
Tokyo Gas



Jonathan Westby
SVP – LNG
JERA Global Markets



Eiji Ohira
Head – Hydrogen
Business / European
Representative
Kawasaki Heavy
Industries / Japan
Hydrogen Association



Koji Ochiai
SVP
INPEX Corporation



Tsutomu Yokoyama
Executive Officer
NYK Line



Tomohide Muraoka
Executive Officer &
Chief Engineer
JGC Corporation



Mitsuhiro Yamazaki
Head of Process
Engineering
Section 3 – Process
Engineering
Department
Chiyoda Corporation



Takuma Kikunaga
Assistant Manager
Kawasaki Heavy
Industries



Ryosuke Amezawa
Senior Process
Engineer
JGC Corporation



Hiroto Takeuchi
Principal Process
Engineer
JGC Corporation



Mizuho Komaki
LNG/CCS Principal
Process Engineer
JGC Corporation



Go Katayama
Principal Insight
LNG Analyst
Kpler



Andy Trouiller
Project Leader
TB Global
Technologies



Haruhiko Tominaga
Manager
Kawasaki Heavy
Industries



**Dr. Fuminori
Yanagimoto**
Unit Leader
ClassNK



Toru Yoneyama
Technical Authority
Chiyoda Corporation



Kazuaki Oda
Process Engineer
MODEC



Ryo Iwama
Process Engineer
JGC Corporation



Motoki Sakagami
Technical Engineer
ClassNK



Junya Suzuki
Engineer
MODEC



Shinichiro Ishimaru
Manager
ClassNK



Yuta Kawashima
Senior Engineer
JGC Corporation



Dr. Woorim Lee
Senior Research
Engineer
HD Korea
Shipbuilding &
Offshore Engineering
(HD KSOE)

ジャパン・エネルギー・カンファレンス・プログラム詳細

2026年9月15日(火)

ジャパン・エネルギー・シアター

11:15 – 11:30

基調挨拶

開会挨拶



東 哲也
資源開発課長
経済産業省



田中 伸男
タナカグローバル株式
会社代表
元国際エネルギー機
関(IEA)事務局長

11:30 – 12:10

政策対談パネルディスカッション

12:10 – 12:50

グローバルCEOパネルディスカッション

世界の転換期における日本のエネルギー外交:供給レジリエンスの強化、多様化、戦略的パートナーシップの推進

アジアが地政学的・経済的にますます複雑化する環境に直面するなか、日本は自国のエネルギー安全保障と地域全体のレジリエンス強化の両立に向け、エネルギー外交の役割を再定義しています。第7次エネルギー基本計画の重点方針を踏まえ、政策立案者は供給の多様化、経済安全保障、インフラ整備、国境を越えた協力をより一体的に進めるアプローチを採用しています。貿易ルート、サプライチェーン、世界市場をめぐる不確実性が高まるなか、長期的な安定性、競争力、成長を支える基盤として、国際協力の深化が不可欠となっています。

AZECやPOWER Asiaなどの取り組みは、地域のエネルギーレジリエンスと経済安全保障の強化にどのように貢献できるのでしょうか。供給網の多様化と長期的な成長を支えるために、どのような新たなパートナーシップ、投資枠組み、外交アプローチが求められるのでしょうか。また、各国政府は、地域協力を加速させながら、エネルギー安全保障、経済性、脱炭素化のバランスをどのように実現すべきでしょうか。

PANELLISTS



東 哲也
資源開発課長
経済産業省



渡辺 哲也
事務総長
東アジア・アセアン経済
研究センター(ERIA)

MODERATOR



田中 伸男
タナカグローバル株式
会社代表
元国際エネルギー機
関(IEA)事務局長

参加者インサイト:

日本がエネルギー外交を活用し、地域のエネルギーレジリエンス強化と国際協力の深化をどのように推進しているかを考察します。

世界のエネルギー経済・地政学

天然ガス・LNG

日本のエネルギーミックスの変革:将来を見据えたエネルギーシステムの多様化と安定化

日本のエネルギー政策は、いま大きな転換期を迎えています。日本は資源のほとんどを海外からの輸入に頼る工業国です。そのため、2026年現在の国際情勢による市場の混乱や、将来的な電気の必要量の増加に対応していかなければなりません。現在は、これまで使ってきた化石燃料、安全性を最優先とする原子力、普及を進める再生可能エネルギー、そして水素などの次世代燃料を、どのように最も効率よく組み合わせて使うかというバランスの再構築に迫られています。これまで政府の戦略は、海外からの資源を安定して確保することに主眼を置いていました。しかしこれからは、災害やトラブルが起きても耐えられるシステム全体の強靱化、デジタル技術を活用した無駄のない効率化、そして社会全体の電化を進めるための投資拡大へと大きく舵を切っています。同時に、海外の国々との協力関係をさらに強めながら、新しいエネルギー技術の導入を急いでいます。

世界的な供給環境の不確実性が高まるなか、日本はどのようにエネルギーミックス戦略を再構築しているのでしょうか。LNG、原子力エネルギー、再生可能エネルギー、そして次世代燃料の安定確保において、長期的なパートナーシップはどのような役割を果たすのでしょうか。また、企業の経営者(CEO)は、市場の極端な混乱のなかで資本配分を決定する際、「レジリエンス(回復力・安定性)」、「アフオーダビリティ(手頃な価格)」、そして「脱炭素化」の目標をどのようにバランスさせているのでしょうか。

PANELLIST



金花 芳則
会長
川崎重工株式会社



Justin Rowland
Director & CEO
JERA Global
Markets

MODERATOR



Gavin Thompson
Vice Chair –
EMEA
Wood
Mackenzie

参加者インサイト:

日本のエネルギー業界のリーダーは、どのようにパートナーシップ、事業ポートフォリオ、投資戦略を再構築し、不確実性に対応しながら長期的なシステムレジリエンスと電化の推進を実現しようとしているのでしょうか。

世界のエネルギー経済・地政学

天然ガス・LNG

掲載されているセッション概要、日程および時間は変更となる場合があります。内容は制作時点の情報に基づいています。

13:50 – 14:40

リーダーシップパネルディスカッション

**逼迫する市場環境における日本のLNG戦略：
供給、柔軟性、そして長期的競争力**

米国およびカタールからの大規模なLNG供給拡大は、中長期的に世界市場を大きく変化させると見込まれています。一方で、日本が直面している足元の現実が大きく異なります。供給面の不確実性、アジア全域における競争の激化、そして地政学的なボラティリティの高まりにより、短期的な市場環境は逼迫し、価格の予測は困難な状況が続いています。こうした背景のもと、日本のエネルギー業界のトップリーダーは、自国のLNG戦略の根幹を改めて見直すことを迫られています。供給ポートフォリオの構成、長期的な調達枠組み、そして継続的な市場混乱に対応するための主要パートナーシップの強靱性を再評価する必要性が高まっています。

日本におけるLNG需要は、短期から中期にかけて電力供給の安定性を支える上で不可欠であり、今下される意思決定が、今後数十年にわたる競争力を左右することになります。構造的に需給が逼迫する世界市場において、日本の買い手はどのように戦略的なポジションを再構築すべきでしょうか。オーストラリア、マレーシア、米国といった主要供給国との長期的なパートナーシップは、新たな供給量の拡大と競争相手の増加によってどのように変化していくのでしょうか。また、新たな供給ルートや新興生産国は、日本の供給多様化戦略においてどのような役割を果たすべきでしょうか。さらに、日本のエネルギーリーダーは、短期的な供給レジリエンスの優先課題を、エネルギー安全保障、経済性、そしてエネルギー転換の現実を踏まえた、持続可能な長期LNG戦略へとどのように結び付けていくべきでしょうか。

PANELLISTS



東 哲也
資源開発課長
経済産業省



穴倉 尚
執行役員
低炭素ソリューション本部
天然ガス事業部長
ENEOS Xplora
株式会社



Ronan Bescond
VP - LNG
Marketing &
Origination
TotalEnergies

MODERATOR



Ilke
Karayigitoglu
Senior Director,
Consulting
S&P Global
Energy



Yingying Zhou
VP-Origination
Cheniere
Energy, Inc.



藤森信行
GM - LNG
Business
Department
東京ガス

参加者インサイト：

世界市場の不確実性と競争が高まるなか、LNG業界のリーダーが、自らの市場戦略と長期的な供給パートナーシップをどのように再構築しているかを考察します。

世界のエネルギー・経済・地政学

天然ガス・LNG

14:40 – 15:20

リーダーシップパネルディスカッション

**変化する燃料選択：
公益事業、レジリエンス、そして進化する日本の電源構成**

日本の電力会社は、難しい燃料戦略の判断を迫られています。電力需要が増加する一方で、世界市場は地政学的リスクや価格変動の影響を受けています。原子力発電所の再稼働は緩やかに進んでいる一方、再生可能エネルギーは拡大を続けていますが、送電網の制約や地域間格差といった課題を抱えています。LNGは電力システムの柔軟性を支える重要な役割を果たしており、石炭もエネルギー移行に伴う課題があるなかで一定の役割を維持しています。同時に、日本の排出量取引制度(GX-ETS)や企業の脱炭素化目標は、排出原単位の低減、コスト管理、そして長期的な投資配分の最適化を求めています。議の焦点は、部分的な改善から、2030年代を通じて供給途絶、需要急増、政策変更に対応可能な、レジリエンスが高く、経済性と低炭素化を両立した電源構成の構築へと移っています。

市場の変動が激しく、供給力不足が懸念されるなか、日本の電力会社はLNG、原子力、再エネ、石炭のバランスをいかに取るべきでしょうか。長期的なレジリエンス(回復力)を高めるうえで、原発の再稼働や運転期間の延長、そして需給に合わせて柔軟に動かせる火力発電の重要性が問われています。コストを適切に管理して競争力を維持しながら、同時に脱炭素化を加速させるための具体的な戦略に迫ります。

PANELLISTS



菊地 剛彦
アジア・パシフィック
総代表 兼
インド総代表
兼 Mitsubishi
Heavy Industries
Asia Pacific Pte
.Ltd. 会長
三菱重工株式
会社



飯本 晃
執行役員 国際エ
ネルギー戦略に関
する事項担当
J-POWER(電源
開発株式会社)



青柳 亮子
ジャパン・カントリー
・プレジデント
シュナイダーエ
レクトリック



Joseph Bauer
Senior Advisor,
Indo-Pacific
Export-Import
Bank of the
United States



Joshua Ngu
Vice Chairman
& Head - Asia
Pacific Region
Wood
Mackenzie

MODERATOR

参加者インサイト：

日本の主要電力会社が、電力の安定供給、経済性、そして長期的なシステムレジリエンスを確保するために、どのように燃料戦略と投資配分を再構築しているのか。

電力・産業化

天然ガス・LNG

ジャパン・エネルギー・カンファレンス・プログラム詳細

2026年9月15日 (火)

ジャパン・エネルギー・シアター

15:20 – 16:00

リーダーシップパネルディスカッション

日本のLNG契約を徹底分析： 変動する市場における柔軟性、価格耐性、リスクへの対応

短期的な供給逼迫、継続する価格ボラティリティ、そして米国メキシコ湾岸からの大規模な新規供給量の到来により、日本市場におけるLNG契約のあり方は根本的な見直しを迫られています。戦略的優先事項が最上位レベルで定められるなか、商業面での課題は実行段階へと移っています。すなわち、急速な適応力が求められる市場において、いかに精度の高い契約設計を行うかが問われています。価格フォーミュラの設計やインデックス連動のあり方から、スイングボリューム、仕向地柔軟性条項、短期的なポートフォリオ最適化に至るまで、LNG契約の実務は急速に進化しており、今下される意思決定が、今後数年にわたる日本の市場リスクのあり方を左右することになります。

長期的な供給安定性と短期的な市場アクセスを両立させるために、契約ポートフォリオはどのように再構築されるべきでしょうか。アジア太平洋地域および世界市場における価格変動リスクへのエクスポージャーを管理するうえで、最適な価格指標や価格設定手法とは何でしょうか。また、炭素集約度指標、排出量連動型商品、デジタル取引プラットフォームが商業交渉にますます組み込まれるなか、契約の枠組みはどのように進化すべきでしょうか。さらに仕向地の柔軟性がこれまで以上に重要な戦略的ツールとなるなか、ポートフォリオ最適化戦略をどのように活用し、リスクを管理するとともに、新たな市場環境における価値創出につなげていくべきでしょうか。

PANELLISTS



Sarah Behbehani
SVP & Head - LNG Trading Asia
SEFE Marketing and Trading



Claudio Ribeiro
Head - LNG Trading Asia
Vitol



Felix Booth
Global Head - LNG & Natural Gas
Vortexa

MODERATOR



Agnieszka Ason
Senior Research Fellow
Oxford Institute for Energy Studies

参加者インサイト：

日本のLNG商業部門のリーダーが、逼迫し変化のスピードを増す世界市場に対応するため、契約構造、価格メカニズム、柔軟性確保の手段をどのように再設計しているかを考察します。

世界のエネルギー経済・地政学

天然ガス・LNG

16:00 – 16:40

リーダーシップパネルディスカッション

日本・ASEANエネルギー回廊： 地域連携を通じたCCUS、水素、LNGの拡大

脱炭素化を加速させると同時に増大するエネルギー需要への対応を進めるなか、日本のエネルギー戦略において国境を越えたインフラ連携の重要性が高まっています。日本企業は、東南アジア各国において、CCUSの事業化可能性調査、CO2輸送実証プロジェクト、海底貯留パートナーシップを推進するとともに、LNG輸入能力の拡充や、水素・アンモニアのサプライチェーン構築にも取り組んでいます。豊富なCO2貯留ポテンシャルと既存のガスインフラを有するASEAN諸国は、多様なエネルギー供給の確保、拡張可能なカーボンマネジメント、そして長期的なシステムレジリエンスの実現において、重要なパートナーとなりつつあります。現在、その焦点は個別の二国間プロジェクトから、回収、輸送、貯留、輸入インフラを統合した、長期的かつ投資可能な地域エネルギー回廊の構築へと移行しています。

国境を越えたCO2、水素、LNGのバリューチェーンを大規模に展開するためには、どのような規制・政策枠組みが必要となるのでしょうか。また、日本とASEANのパートナーは、輸送、貯留、ターミナル、認証制度に関する基準をどのように整合させ、相互運用性と投資家の信頼を確保できるのでしょうか。さらに、実証段階から、事業性と資金調達可能性を備えた統合型地域エネルギー回廊へ移行するためには、どのような事業モデルや資金調達スキームが求められるのでしょうか。

PANELLISTS



森 裕之
エネルギー開発金融部長
独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC)



杉山 正幸
エネルギー事業本部長
株式会社商船三井



Lucian Keong
MD
Global Infrastructure Partners

MODERATOR



Aman Modi
MD & Senior MDP and Head - BCG Thailand
BCG

参加者インサイト：

日本とASEANのパートナーが、投資を促進し、地域のレジリエンスを強化するとともに、国境を越えた脱炭素化システムを拡大するため、統合型エネルギーコリドーをどのように構築しているかを考察します。

低炭素ソリューション・エネルギー効率

水素・低炭素燃料

掲載されているセッション概要、日程および時間は変更となる場合があります。内容は制作時点の情報に基づいています。

16:40 – 17:20

リーダーシップパネルディスカッション

**日本の次なる産業成長を支えるエネルギー：
データセンター、半導体、先端技術製造業の需要拡大への対応**

日本では、半導体製造工場、AIスーパーコンピューティングセンター、EV製造拠点、精密素材関連施設の急速な拡大により、エネルギー集約型産業が大きく成長しています。世界をリードする高付加価値製造大国としての日本の発展は、エネルギー需要の構造を変化させ、大容量かつコスト効率の高いクリーン電力へのニーズを加速させています。こうした産業拡大は、LNG調達、電力購入契約、送電網計画、企業の脱炭素化目標に影響を与えるとともに、統合型電力ソリューション、蓄電、水素、デジタル最適化における大きな新たな商業機会を生み出しています。

日本の次なる産業革命を支えるには、競争力のあるコストで提供される、将来を見据えたエネルギーシステムが不可欠です。拡大するデータセンターや半導体クラスターの需要に対応するため、日本は十分な低炭素電力をどのように確保すべきでしょうか。信頼性の高い供給力を適正な価格で提供するには、どのような商業モデルや規制の枠組みが必要となるのでしょうか。また、増大する産業需要に対応するため、電力会社、LNGサプライヤー、クリーンエネルギー開発事業者は、どのように投資し、連携していくべきでしょうか。

PANELLISTS



Catherine Sylvain
Director –
Energy Japan
bp



Sundar Chidambaram
VP –
Government
Affairs
Siemens
Energy



Wooi Leong Tan
Senior
Executive
Director –
Global Energy
Surbana Jurong
Group



Chad Harkness
MD – Energy
Geminus



Yuriy Humber
Founder
Japan NRG

MODERATOR

参加者インサイト：

日本の次なる産業成長が、クリーンで信頼性が高く、競争力のあるエネルギーへの大規模な需要をどのように創出しているのか、また、それを大規模かつ経済的に実現するための戦略、技術、資金調達のアプローチを考察します。

電化・産業化

人工知能(AI)

Gastechストラテジックカンファレンスの全プログラムはこちらからご覧いただけます：

www.gastechevent.com/conferences

17:20 – 18:00

リーダーシップパネルディスカッション

**「水素社会」実現に向けた日本の取り組み：
技術、市場形成、そして地政学的現実の整合**

国家水素戦略を世界で初めて策定した日本は、より広範なグリーントランスフォーメーション(GX)戦略の一環として、クリーン水素およびアンモニアの大規模展開、商業実証の加速、発電・産業・輸送分野での導入促進において、先進的な実証市場としての役割を担っています。一方で、この分野における生産、貯蔵、輸送コストは、従来型燃料と比較して依然として高い水準にあります。変動の激しい世界的なサプライチェーン環境のなかで、日本は水素の輸入を必要としており、取引・価格形成メカニズムもおお発展途上にあります。そのため、資金提供者とオフテイカーの双方にとって魅力的な、安定的で拡張性があり、投資可能な水素・アンモニア市場の形成に向けた機運は、依然として限定的です。

商業規模でのオフテイクに最も近づいている日本の産業分野はどこでしょうか。クリーン水素・アンモニアのコストギャップを縮小し、安定的な調達を実現するためには、どのような市場メカニズムや政策措置が必要となるのでしょうか。また、日本はどのように輸入インフラの整備を進めるとともに、地域における認証制度や安全基準の策定を主導していくべきでしょうか。

PANELLISTS



増田 友輔
Head –
株式会社 国際協
力銀行



大平 英二
Head –
Hydrogen
Business /
European
Representative
川崎重工業株式
会社/一般社団
法人水素バリュ
ーチェーン推進
協議会



結城 百代
海外事業第一本
部 海外計画部 兼
海外事業第二本
部 アジアカーボン
ニュートラル事業
部 上級主幹
石油資源開発株
式会社 (JAPEX)



鈴木 圭一
パートナー&再生
可能エネルギー・
サステナビリティ
投資 責任者
株式会社アドバ
ンテッジパート
ナーズ



Mona Bhagat
CCO
Elemental
Technologies

MODERATOR

参加者インサイト：

日本が水素・アンモニアを実証段階から、商業的に成立する国内外市場へとどのように移行させているかを考察します。

低炭素ソリューション・エネルギー効率

水素・低炭素燃料

ジャパン・エネルギー・リーダーシップ ラウンドテーブル

Gastech 2026 リーダーシップ・ラウンドテーブルは、世界のエネルギー業界における重要な転換点を見据え、各国の閣僚、政策立案者、企業経営者が参加する招待制・非公開の対話セッションです。セッションはチャタムハウス・ルールのもとで開催され、参加者は率直な意見交換を行いながら、戦略的な方向性の共有や、業界の未来を担うリーダー同士による課題解決に向けた建設的な議論を行います。

各セッションには、厳選された30名のリーダーが参加します。参加をご希望の方は選考の対象となりますので、conference@japanenergyevent.comまでお問い合わせください。

2026年9月15日(火)

09:30 – 11:00

スポンサー

abaxx. Exchange

インサイトパートナー

kpler

日本の電力システム変革を実現する： 電化社会への移行を加速するために

データセンターや半導体製造などの主要産業分野における将来的な電力需要の増加に加え、デジタルインフラや電力網の急速な拡大に対応するためには、日本のエネルギーシステムの抜本的な変革が求められています。この構造的な転換は、地政学的リスクの高まり、サプライチェーンの逼迫、エネルギー価格の変動が市場価格や投資判断に大きな影響を及ぼす、極めて不安定な国際環境の中で進めなければなりません。

洋上風力入札、太陽光発電プロジェクト、大規模蓄電設備の導入は急速に進展しています。また、日本の原子力分野においては、ベースロード電源の強化を目的とした再稼働および再建プログラムが優先的に推進されている一方で、LNGは依然としてエネルギーミックスにおける重要な調整電源としての役割を担っています。しかし、日本が将来を見据えた「電化国家 (Electrostate)」へと移行するためには、数多くの戦略的課題への迅速な対応が必要であり、議論と戦略を速やかに具体的な行動と実行へと移していかなければなりません。

ラウンドテーブルでは、厳しい国際エネルギー環境のなかで電化が加速する中、日本がいかにして電力システムの信頼性と経済性を維持していくべきかについて議論します。企業向け電力購入契約 (PPA) 制度や地域間需給調整市場の改革から、火力・再生可能エネルギーのハイブリッドポートフォリオの構築、国内外の大規模送電連系プロジェクトの推進に至るまで、どのような戦略的施策が最も効果的なのでしょうか。また、どのような規制改革や市場制度の見直しが必要であり、多様化する新たなエネルギーミックスのどの要素が、日本の次世代電力システム変革を支える重要な柱となるのでしょうか。

電化・産業化

天然ガス・LNG



Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
A new supply mix for 2023: Exploring the impact of new
sources of supply on global gas markets

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
A new supply mix for 2023: Exploring the impact of new
sources of supply on global gas markets

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
Surjan Wipha Sathorn
Mitral U.S.A. Lines

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
Executive Committee
U.S.

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

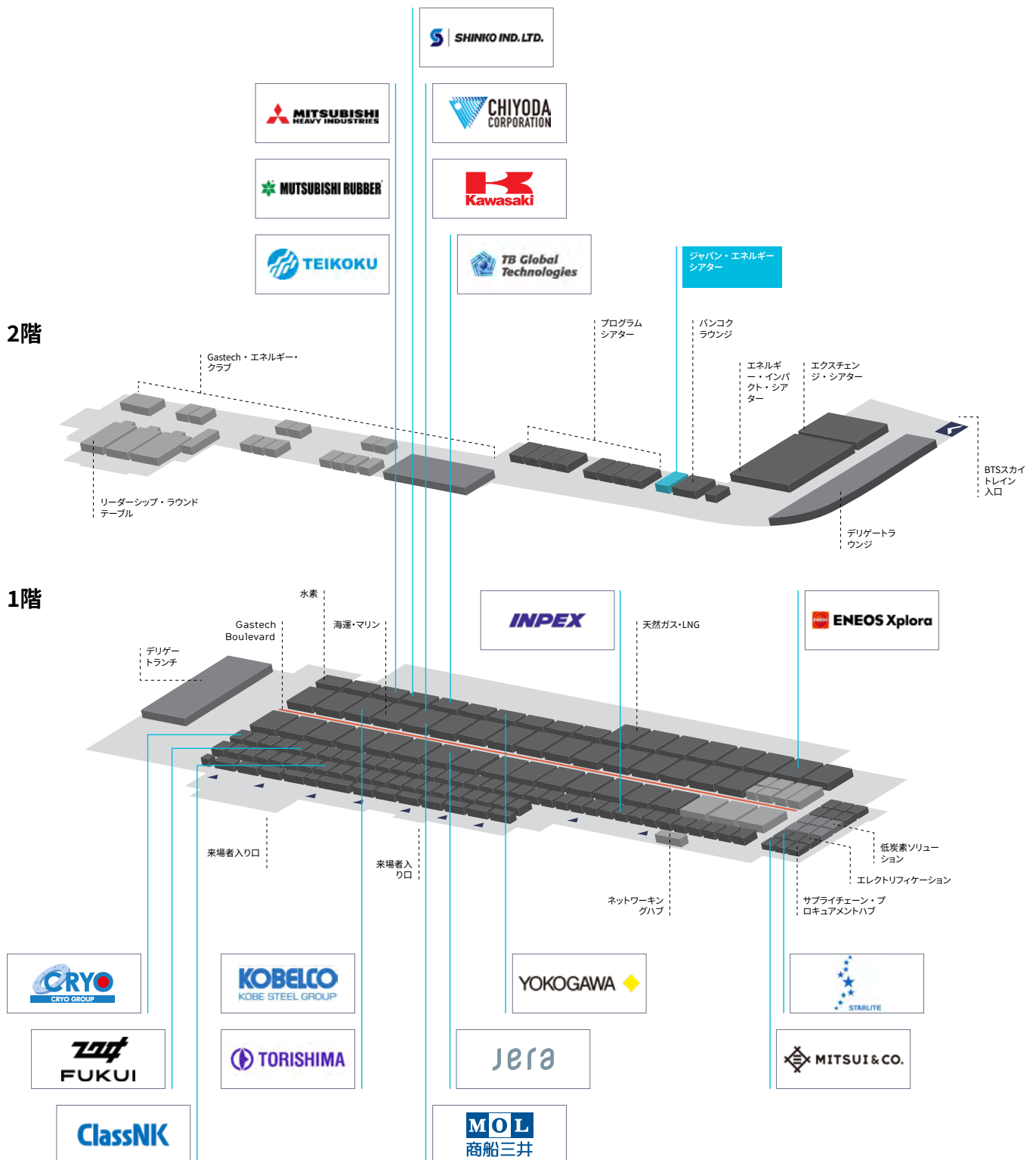
Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration

Gastech Energy Club
Executive Committee 2023
Energy Transition 2023
U.S. Energy
Administration



会場フロアプラン

Gastech 2026への参加が決定している日本企業：





Exhibition & Conference • 14-17 September 2026 • Bangkok, Thailand

エネルギーの未来 を切り拓く、需要家 と供給者が集う世界 最大級のプラットフ ォーム

54年の歴史を誇るGastech 2026は、今日のエネルギーシステムの構築と実装を支える人材、知見、そしてソリューションが集結する世界有数のエネルギーイベントです。天然ガス、LNG、低炭素ソリューション、電化 (Electrification)、そしてエネルギー分野におけるAIまで幅広いテーマを網羅し、政策立案者、投資家、産業界の意思決定者を結びつけ、エネルギー転換を実現するための具体的な取り組みを加速します。

世界的なエネルギー需要が拡大し、エネルギーシステムへの負荷が高まる中、求められているのは「構想」ではなく「実行」です。いま最も重要なのは、安全で、手頃な価格かつ強靱なエネルギーを大規模に供給すること。Gastechは、その実現に不可欠な戦略、パートナーシップ、そして最先端技術へ直接アクセスできる場を提供します。

展示会

50,000

来場者

1,000

出展企業

150

参加国・地域

20

カントリーパビリオン

カンファレンス

30

閣僚

8,000

デリゲート

1,000

登壇者

200

セッション

54

54年にわたり世界の
エネルギー業界をつ
ないできた実績



参加企業（一部）：

カンファレンスパス

Gastech 2026へのご来場を最大限にご活用ください。

ジャパン・エネルギー・ストラテジックプログラムパスへの参加、または、Gastech・ストラテジックカンファレンス4日間パスへのアップグレード、さらにはビジター登録により、展示会や多彩なコンテンツを存分にお楽しみいただけます。

ジャパン・エネルギー・カンファレンス 1日パス

2026年9月15日 (火)

£1,500

1日デリゲートパスのご予約:
www.gastechevent.com/forms/delreg/japan-energy-day/

ご質問、お問い合わせ:
delegates@japanenergyevent.com

ジャパン・エネルギー・カンファレンスに1日専用パス(9月15日)で参加し、日本の進化するエネルギーアジェンダを推進する業界リーダー、政策立案者、イノベーターとのつながりを築くことができます。

アクセスに含まれる内容:

- ・ ジャパン・エネルギー・シアターのみ
- ・ Gastech イノベーションアクセレレーター
- ・ サプライチェーン&調達プログラム
- ・ デリゲートラウンジへのアクセス
- ・ 個別に最適化されたネットワーキング
- ・ すべての展示ホールへのアクセス

Gastech・ストラテジックカンファレンス 4日間パス

2026年9月14日 (月) ~ 17日 (木)

£4,460

デリゲートパスのご予約:
gastechevent.com/delegatepass
ご質問、お問い合わせ:
gastechdelegates@dmgevents.com

Gastech ストラテジックパス - 200以上の限定セッションと、1,000人のエネルギー業界リーダーによる最新知見にアクセスできる特別パスです。

アクセスに含まれる内容:

- ・ 6つのストラテジックプログラム (ジャパン・エネルギーを含む)
- ・ 6つのテクニカル&コマーシャルプログラム
- ・ Gastech イノベーションアクセレレーター
- ・ サプライチェーン&調達プログラム
- ・ デリゲートラウンジへのアクセス
- ・ 個別に最適化されたネットワーキング
- ・ すべての展示ホールへのアクセス
- ・ Energy Connects Conference Hub (イベント後のアクセス)

展示会ビジターパス

2026年9月14日 (月) ~ 17日 (木)

入場無料

ビジター登録はこちらから
<https://www.gastechevent.com/visit/visitor-registration/>

Gastech ストラテジックパス - 200以上の限定セッションと、1,000人のエネルギー業界リーダーによる最新知見にアクセスできる特別パスです。

アクセスに含まれる内容:

- ・ 4日間イベントアクセス
- ・ 1,000社を超える世界各国の出展企業が出展する全展示ホールへのアクセス
- ・ イベント公式モバイルアプリへのアクセス

EXHIBITION & CONFERENCE

14–17 September 2026
Bangkok, Thailand

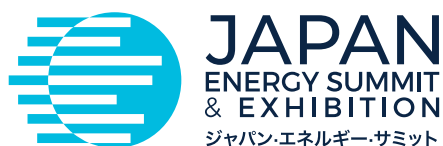
Gastech・ジャパン・ エネルギー ストラテジックプログラ資料

delegates@japanenergyevent.com

シンガポール: +65 8202 3502

www.gastechevent.com/japan-energy

ご予約おきください



2027年5月26日～28日
東京ビッグサイト

主催 **dmg** events